

田中 均

たなか・ひとし=69年京大法卒。外務省アジア大洋州局長、外務審議官を経て現在、(株)日本総研国際戦略研究所理事長、(公財)日本国際交流センターシニア・フェロー、東大大学院客員教授。



筆者自身、北朝鮮と一年余、合計数百時間にも及ぶ交渉を経験していることも

朝鮮半島に緊張が走った。8月4日、南北軍事境界線を挟む非武装地帯で2人の韓国兵士が地雷に触れ負傷し、韓国側は報復として11年ぶりに体制批判宣伝放送を再開した。北朝鮮は拡声機に向け砲撃、韓国も砲撃を返した。北朝鮮は「準戦時状態」を布告、約7割の潜水艦・潜水艇が出港し、最前線の砲兵戦力が倍増したと伝えられた。このような一触即発の状況を受けて22日から始まった南北高官協議で双方は夜を徹して協議を行い、25日未明に北朝鮮側の遺憾の意の表明、当局者協議の早期開催など6項目の合意が発表された。

時評

ウェーブ

2015.9.8

南北緊張と北朝鮮の対外姿勢

貿易投資関係も限られている。従って、何かを得たい時には相手が不都合に感じるような事を起こし、エスカレートさせ、相手の脅威感を高め、交渉で収拾する過程で得たいものを得るという手法である。米国との関係では核やミサイル実験、韓国との関係では通常兵器による挑発である。日本との関係では拉致被害者の帰還を含む

人道問題である。今回の地雷事件は比較的よくわかり、こういう結果となるであろうことは事前に十分予測がついた。北朝鮮の対外行動や交渉については幾つかの特徴的な点が指摘できるのだと思う。

まず、いわゆる瀬戸際政策である。北朝鮮は孤立し続けており、相手国との間でほとんど梃子が無い。援助や支援を受ける側であり、貿易投資関係も限られている。従って、何かを得たい時には相手が不都合に感じるような事を起こし、エスカレートさせ、相手の脅威感を高め、交渉で収拾する過程で得たいものを得るという手法である。米国との関係では核やミサイル実験、韓国との関係では通常兵器による挑発である。日本との関係では拉致被害者の帰還を含む

更に北朝鮮は物事を起こすタイミングについても計算つくという場が多々、交渉の結果は出来るだけドラマチックに発表するという傾向が強い。今回の事件も米韓合同軍事演習や北京で9月3日の抗日戦争勝利70周年記念の大々的な行事が計画されている直前であり、中国に対しても一定の警告的意味合いも持たせたかったのだろう。発表についても「劇的な妥結」として深夜の共同発表を行った。

また、北朝鮮は孤立し続けており、相手国との間でほとんど梃子が無い。援助や支援を受ける側であり、貿易投資関係も限られている。従って、何かを得たい時には相手が不都合に感じるような事を起こし、エスカレートさせ、相手の脅威感を高め、交渉で収拾する過程で得たいものを得るという手法である。米国との関係では核やミサイル実験、韓国との関係では通常兵器による挑発である。日本との関係では拉致被害者の帰還を含む

人道問題である。今回の地雷事件は比較的よくわかり、こういう結果となるであろうことは事前に十分予測がついた。北朝鮮の対外行動や交渉については幾つかの特徴的な点が指摘できるのだと思う。

まず、いわゆる瀬戸際政策である。北朝鮮は孤立し続けており、相手国との間でほとんど梃子が無い。援助や支援を受ける側であり、貿易投資関係も限られている。従って、何かを得たい時には相手が不都合に感じるような事を起こし、エスカレートさせ、相手の脅威感を高め、交渉で収拾する過程で得たいものを得るという手法である。米国との関係では核やミサイル実験、韓国との関係では通常兵器による挑発である。日本との関係では拉致被害者の帰還を含む

更に北朝鮮は物事を起こすタイミングについても計算つくという場が多々、交渉の結果は出来るだけドラマチックに発表するという傾向が強い。今回の事件も米韓合同軍事演習や北京で9月3日の抗日戦争勝利70周年記念の大々的な行事が計画されている直前であり、中国に対しても一定の警告的意味合いも持たせたかったのだろう。発表についても「劇的な妥結」として深夜の共同発表を行った。